

平成30年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成30年5月11日

上場会社名 株式会社エーワン精密 上場取引所 東
 コード番号 6156 URL <http://www.a-one-seimitsu.co.jp/>
 代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 林 哲也
 問合せ先責任者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 林 哲也 (TEL) 042-363-1039
 四半期報告書提出予定日 平成30年5月15日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年6月期第3四半期の業績（平成29年7月1日～平成30年3月31日）

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年6月期第3四半期	1,497	4.3	442	6.6	453	6.3	339	17.7
29年6月期第3四半期	1,436	0.1	415	6.0	426	5.6	288	△37.3
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
30年6月期第3四半期	141.66		—					
29年6月期第3四半期	120.33		—					

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年6月期第3四半期	8,594	7,846	91.3
29年6月期	8,288	7,651	92.3

(参考) 自己資本 30年6月期第3四半期 7,846百万円 29年6月期 7,651百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年6月期	—	0.00	—	60.00	60.00
30年6月期	—	0.00	—	—	—
30年6月期(予想)	—	—	—	70.00	70.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年6月期の業績予想（平成29年7月1日～平成30年6月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,050	6.1	587	4.8	609	5.3	391	△0.8	163.22

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

30年6月期3Q	3,000,000株	29年6月期	3,000,000株
30年6月期3Q	600,674株	29年6月期	600,600株
30年6月期3Q	2,399,372株	29年6月期3Q	2,399,400株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、国内外の景気が好調だったことを受けて堅調に推移しました。

個人消費は堅調ではありましたが横ばいで、公共投資に関しても老朽化した社会インフラの補修等を中心に継続しましたが、力強さに欠けました。一方で民間設備投資は、このところの好調な企業業績を背景に大手中堅製造業を中心に、生産設備更新や製造品目の多様化・複雑化に対応した製造設備新設や設備改造、また労働者不足に対応した生産ロボットの導入などで順調に推移しました。製造業の生産面においても、景気好調な北米や潜在的に消費需要の旺盛な新興国向けに輸出も好調で、国内外の生産拠点で増加傾向となりました。

自動車、機械、設備などにも電子デバイスが多用され、膨大なデータ処理が必要なソフトの普及など製造業を取り巻く環境も変化の速度が増しており、それに伴って半導体生産、半導体製造装置など関連する分野は活況となりました。

このような状況のなかコレットチャック部門では、国内の量産部品加工、設備投資が堅調に推移したことを受けて、期初の7月から基本的に緩やかな受注増加となりましたが、12月年末と3月年度末にかけて若干の調整がありました。この結果、当セグメントの当第3四半期累計期間の売上高は1,042,470千円（前年同期比4.4%増）、セグメント利益は529,590千円（前年同期比5.4%増）となりました。

切削工具部門では、設備、金型、治具など単品加工と量産部品加工ともに堅調に推移し、当社の受注も緩やかに増加しました。昨年の10月からは受注は一定水準で継続して入ってきました。

この結果、当セグメントの当第3四半期累計期間の売上高は436,042千円（前年同期比5.0%増）、セグメント利益は127,067千円（前年同期比0.6%増）となりました。

自動旋盤用カム部門では、カム式自動旋盤を使用する部品加工が年々減少傾向にあり、前年同期に比べると大幅な減少となりました。この結果、当セグメントの当第3四半期累計期間の売上高は19,345千円（前年同期比15.0%減）、セグメント利益は8,005千円（前年同期比23.8%減）となりました。

これらの結果、当第3四半期累計期間の売上高は1,497,858千円（前年同期比4.3%増）、営業利益は442,893千円（前年同期比6.6%増）、経常利益は453,448千円（前年同期比6.3%増）、四半期純利益は339,882千円（前年同期比17.7%増）となりました。

セグメント別の売上は、以下のとおりであります。

(%表示は対前年同期比)

事業部門別	期別		第27期 第3四半期		第28期 第3四半期		第27期	
	(自 平成28年7月1日 至 平成29年3月31日)		(自 平成29年7月1日 至 平成30年3月31日)		(自 平成28年7月1日 至 平成29年6月30日)			
	百万円	%	百万円	%	百万円	%		
コレットチャック部門	998	(100.1)	1,042	(104.4)	1,340	(100.5)		
切削工具部門	415	(101.3)	436	(105.0)	561	(100.9)		
自動旋盤用カム部門	22	(83.8)	19	(85.0)	30	(84.7)		
合計	1,436	(100.1)	1,497	(104.3)	1,932	(100.3)		

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期会計期間末における流動資産の残高は、6,577,721千円(前事業年度末は6,677,749千円)となり100,028千円の減少となりました。これは、受取手形及び売掛金が19,979千円、繰延税金資産が4,586千円増加しましたが、現金及び預金が126,145千円減少したこと等によるものであります。

また当第3四半期会計期間末における固定資産の残高は、2,016,376千円(前事業年度末は1,610,610千円)となり405,766千円の増加となりました。これは、機械装置及び運搬具が16,592千円、投資有価証券が1,837千円減少しましたが、長期預金が301,727千円、繰延税金資産が40,950千円、建物及び構築物が19,478千円増加したこと等によるものであります。

この結果、当第3四半期会計期間末における総資産は、8,594,098千円(前事業年度末は8,288,360千円)となりました。

(負債)

当第3四半期会計期間末における流動負債の残高は、304,590千円(前事業年度末は213,446千円)となり91,143千円の増加となりました。これは、役員賞与引当金が2,990千円減少しましたが、未払金が81,203千円、その他が6,696千円、未払法人税等が5,875千円増加したこと等によるものであります。

また、当第3四半期会計期間末における固定負債の残高は、443,186千円(前事業年度末は423,039千円)となり20,147千円の増加となりました。これは、退職給付引当金が13,007千円、役員退職慰労引当金が7,140千円増加したことによるものであります。

この結果、当第3四半期会計期間末における負債合計は、747,776千円(前事業年度末は636,486千円)となりました。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産の残高は、7,846,321千円(前事業年度末は7,651,873千円)となり194,447千円の増加となりました。これは、その他有価証券評価差額金が1,284千円減少しましたが、利益剰余金が195,918千円増加したこと等によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の見通しにつきましては、平成29年8月10日発表の業績予想どおりとなる見込みであります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年6月30日)	当第3四半期会計期間 (平成30年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,036,591	5,910,446
受取手形及び売掛金	425,286	445,266
製品	2,398	2,103
原材料	26,078	25,793
仕掛品	170,881	172,500
繰延税金資産	17,063	21,649
その他	495	983
貸倒引当金	△1,044	△1,021
流動資産合計	6,677,749	6,577,721
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	500,180	519,658
機械装置及び運搬具(純額)	528,063	511,470
土地	328,869	328,869
その他(純額)	26,129	89,523
有形固定資産合計	1,383,242	1,449,521
無形固定資産	3,768	2,750
投資その他の資産		
長期預金	—	301,727
投資有価証券	155,471	153,634
長期前払費用	1,671	1,337
繰延税金資産	66,408	107,358
その他	476	438
貸倒引当金	△428	△390
投資その他の資産合計	223,599	564,104
固定資産合計	1,610,610	2,016,376
資産合計	8,288,360	8,594,098
負債の部		
流動負債		
買掛金	16,135	16,493
未払金	81,919	163,122
未払法人税等	68,484	74,360
役員賞与引当金	14,200	11,210
その他	32,707	39,403
流動負債合計	213,446	304,590
固定負債		
退職給付引当金	330,129	343,136
役員退職慰労引当金	92,910	100,050
固定負債合計	423,039	443,186
負債合計	636,486	747,776

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年6月30日)	当第3四半期会計期間 (平成30年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	292,500	292,500
資本剰余金	337,400	337,400
利益剰余金	7,816,340	8,012,258
自己株式	△840,939	△841,125
株主資本合計	7,605,300	7,801,033
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	46,573	45,288
評価・換算差額等合計	46,573	45,288
純資産合計	7,651,873	7,846,321
負債純資産合計	8,288,360	8,594,098

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成28年7月1日 至平成29年3月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成29年7月1日 至平成30年3月31日)
売上高	1,436,182	1,497,858
売上原価	802,942	839,552
売上総利益	633,239	658,305
販売費及び一般管理費	217,832	215,412
営業利益	415,407	442,893
営業外収益		
受取利息	1,150	1,155
受取配当金	2,407	2,529
売電収入	6,616	6,505
貸倒引当金戻入額	358	30
その他	524	335
営業外収益合計	11,057	10,555
経常利益	426,464	453,448
特別損失		
有形固定資産除却損	0	—
特別損失合計	0	—
税引前四半期純利益	426,464	453,448
法人税、住民税及び事業税	125,460	158,550
法人税等調整額	12,267	△44,983
法人税等合計	137,727	113,566
四半期純利益	288,736	339,882

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自 平成28年7月1日 至 平成29年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期損益計 算書計上額 (注)2
	コレット チャック部門	切削工具部門	自動旋盤用 カム部門	計		
売上高						
外部顧客への売上高	998,135	415,298	22,749	1,436,182	—	1,436,182
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	998,135	415,298	22,749	1,436,182	—	1,436,182
セグメント利益	502,550	126,365	10,510	639,426	△224,019	415,407

(注)1 セグメント利益の調整額は、製造部門共通費△6,186千円と主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期累計期間(自 平成29年7月1日 至 平成30年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期損益計 算書計上額 (注)2
	コレット チャック部門	切削工具部門	自動旋盤用 カム部門	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,042,470	436,042	19,345	1,497,858	—	1,497,858
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	1,042,470	436,042	19,345	1,497,858	—	1,497,858
セグメント利益	529,590	127,067	8,005	664,663	△221,769	442,893

(注)1 セグメント利益の調整額は、製造部門共通費△6,357千円と主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。